▪0期：～2012/9　理念とビジョンの共有

浪江復興塾による連続ワークショップでのビジョンの共有

浪江町–復興への道筋と24のプロジェクト

なみえ復興塾、NPO新町なみえ

浪江町、早稲田大学都市・地域研究所＋都市計画佐藤滋研究室

2012年8月

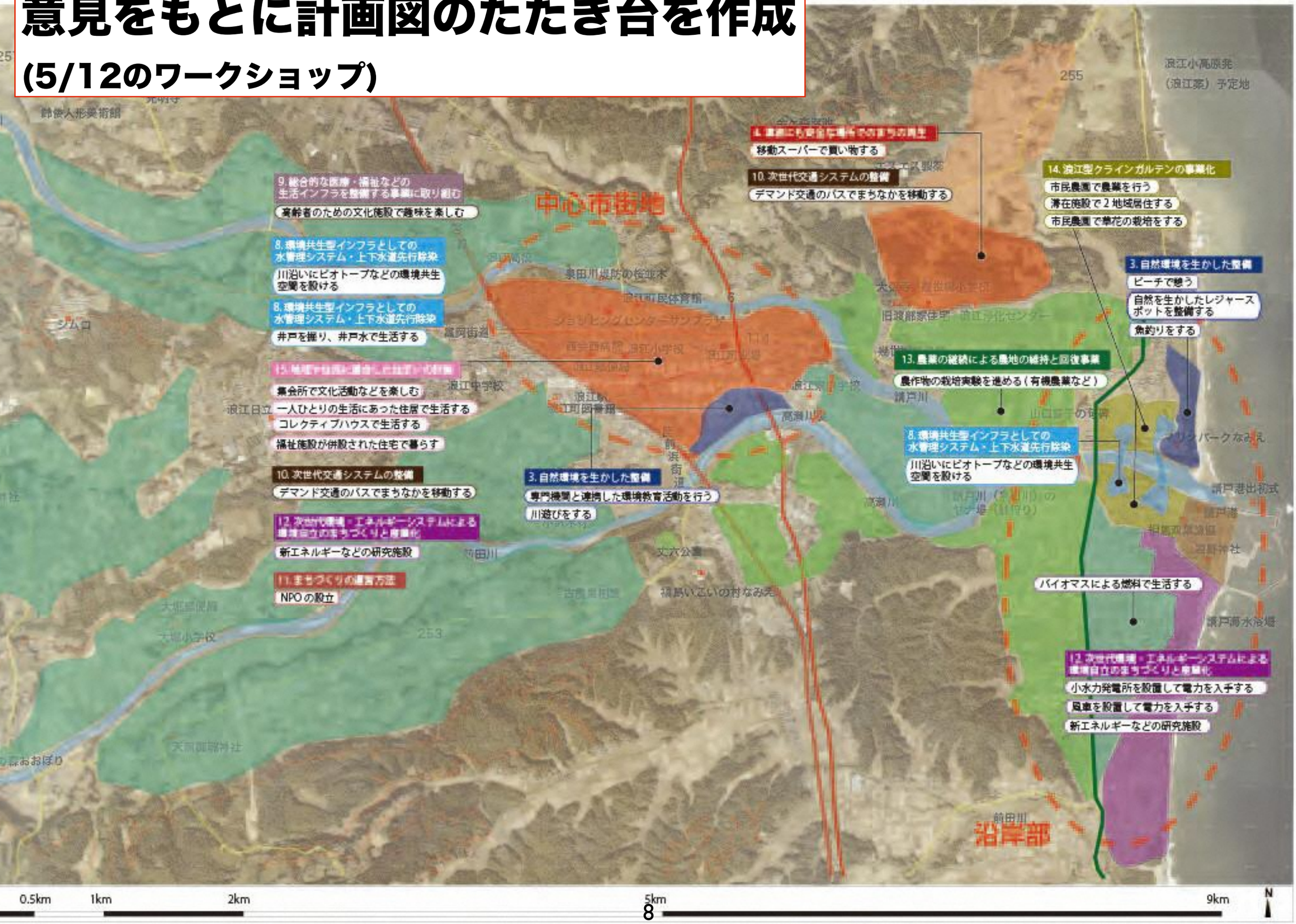
皆さんの意見をまとめたもの

(3/3のワークショップ)

・このWSでは、
浪江全体について様々な意見を頂きました。

意見をもとに計画図のたたき台を作成

(5/12のワークショップ)



6/16
浪江復興のための道筋
全体像

第一段階　復旧・復興にむけて起点事業を開始する(復旧始動期)（２０１３年－２０１８年）

01. P.6

復興公営住宅の建設も含め、それぞれの特性に応じた町外コミュニティの基盤を整備し、避難生活の安定を図る

02. P.8

まず最初に、浪江町役場とその周辺を、除染活動や復旧作業・復興事業を統括する前線基地として整備する

03. P.9

幾世橋小学校とその周辺を、復旧・復興事業に携わる人や、町民のための宿泊施設や、交流の場、一時帰宅センターとして整備・活用する

04. P.10

津波に耐えたマリンパークを美しい沿岸地域の象徴とし、除染・修復を行い、ふるさと浪江への思いを紡ぐ場として活用を始める

05. P.11

山林と河川の放射能汚染を軽減し、あるいは平野や海に影響を及ぼさないための除染技術の開発・実装実験を行う

06. P.12

農地の維持と農業の技術を活かすために米などを植え、再生エネルギー活用と連携した事業を始める

07. P.13

海への美しい眺望を持つ大平山を、震災により失われた多くの人々の魂を鎮める森として、町営墓地を含め整備する

08. P.14

大平山や幾世橋～北棚塩地区にかけての高台に眠る埋蔵文化財の発掘・保全、遺跡公園などの整備を行う

第二段階　復興のための基盤を形成する（復興基盤形成期）（２０１５年－２０２０年）

09. P.18

町外・内コミュニティを長期の復興プロセスに耐えられるよう充実させ、相互が連携する交通システム等を構築する

10. P.19

復旧事業や海上交通の物流拠点として、そして将来的な漁業再開のために港湾を復旧し、さまざまな活用を可能にする

11. P.20

沿岸部で、地盤沈下により浸水している地域を海に戻し、干潟のある豊かな自然を楽しむ場として整備する

12. P.21

沿岸部の南北幹線である254号線（新・浜街道）を自然豊かな嵩上げ道路として整備し、山側の市街地や集落を守る

13. P.22

幾世橋～北棚塩の高台の南斜面に、早期帰還を望む高齢者等のために、多様な居住様式の復興公営住宅等を建設する

14. P.23

農地と農業の継続の為に、まず再生可能エネルギーのための農産物利用を図り、徐々に食用の農産物の生産を再開する

15. P.24

国道6号線の全面復旧、中通りと沿岸部を結ぶ114号線の整備、常磐自動車道の開通など、周辺地域との接続強化を図る

16. P.25

帰還を目指す町民・企業・農業者・町などが協力して、土地権利を一括して引き受けるまちづくり法人を立ち上げる